



2003 年 (平成 15 年)
3 月号 (No. 694)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目次

日本山岳会の現状と長期改善計画 (骨子) について	1
平成14年度海外登山基金助成金	
審査結果	5
海外の山	6
東西南北	7
ボカカルカン初登頂/思い出の 剣岳 厳冬の登頂/俳句・ 奥秩父/詩・ヒマラヤの地に 埋もれて/丹沢のニホンジカ 報告	10
集会委員会・東部ネパール登 山隊の対象変更と現状/丹水 会・第43回例会 紅葉の大山 図書紹介	10
『まんが 西藏探検家 能海寛』 『あの山かの友』『あの頃の山 登り』	
Climbing & Medicine	19
新入会員・図書受入報告	12
会務報告	13
INFORMATION	14
支援トレッキングのご案内	14
ルーム日誌	15

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

日本山岳会の現状と 長期改善計画(骨子)について

西村 政晃

創立100周年を2005年に
控え、中長期的な展望に立つて会
のあり方を検討することとなった。
一昨年9月、理事会で「長期改善
計画策定プロジェクト」の設置が
決まり、西村をリーダーに村井龍
一副会長、今村千秋・坂井広志常
務理事、高原三平・松原尚之・朴
元鍾徳理事、賛田統亜総務委員の
7名がプロジェクトメンバーとな
り、長期改善計画のたたき台づく
りに取り組んだ。

延べ5回にわたり理事・評議員
・会員有識者22名で構成する「検

討メンバー」に意見を聞き、理事
会の3回にわたる審議、評議員会
の諮問を経て、長期改善計画(骨
子)がこのたび承認された。

本計画は会運営の中長期的な指
針とするとともに、単年度計画と
して平成15年度事業計画、収支予
算、組織改正などに反映され、実
施に移されようとしている。そこ
で、日本山岳会の現状についての
私なりの理解と、会で決定した本
計画について、若干の説明を加え
ながら紹介したい。

なお、本計画策定にあたっては、

感覚論に陥らないよう、2000
年11月に実施した「第4回会員ア
ンケート」(回答数3255、回
答率54・5%)の結果を中心に、
できるだけデータに基づいて検
討を行った。

■日本山岳会の現状

1905年10月、7人の発起人
の呼びかけで創立された当会は、
途中大きな戦争の時代を経ながら
着実な歩みを続け、いよいよ再来
年10月14日、創立100周年とい
う記念すべき時を迎える。当会へ
のさまざまな評価があるにしても、
創立以来、パイオニアワーク、精
鋭的な登山を積み重ね、わが国の
登山界に貢献してきた、伝統の山
岳会であることは間違いない。

一昨年には「冬期ロツエ南壁

登攀」(東海支部)、昨年は「東カラ
コルム踏査・パドマナブ峰登山」、
日中合同の女子による「チョー・
オユー峰友好登山」などが実施さ
れ、その伝統は継承されている。
山に関する文化的活動について
も『山』『山岳』などの機関誌の
発行、図書、科学、自然保護など
きわめて幅広く実践してきた。

当会はこうした登山と文化的活
動の地道な積み重ねによって、国
の内外で知名度が高く、わが国を
代表する山岳会として名声が高い。
6007名の会員は登山経験、
職業など多様で、きわめて豊富な
人材が在籍している。これも当会
の誇るべき財産と思う。財政の面
も正味財産4億円を有し、年次の
収支も安定して、財政基盤は強い。
今回の長期改善計画策定プロジ

エクトでは当会の「強み」と「弱み」を明らかにした上でできるだけ「強み」を生かして改善計画を立案する方法をとった。

次に会員の動向を見てみよう。

90年代に入り、登山ブームとも相まって毎年2〜300名台の入会者があつた。平成元年度に4447名だった会員数は、12年間で1548名(34・81%)増えて、平成13年度5995名となり、この2月には6007名を数えている。

しかしこの3年間は会員数が頭打ちの状態である。平成12年度には入会者が200名を割り会員増が27名、平成13年度は物故者、退会者、除籍者が194名もあつて、僅か2名の増加にとどまっている。本年度も同様の傾向にあり純減も懸念される。

会員の構成も大きく変わってきている。会員の高齢化が言われて久しいが、2月10日現在50歳以上の会員は5294名(87・75%)を占める。平均年齢は62歳を数えるに至っている。若い会員は10代から20代で僅かに38名(0・63%)、30代まで含めても239名(3・95%)に過ぎない。どこの山も高齢の登山者で賑わっている。

山岳会の所属のしかたについて、古くは大学山岳部OB会や社会人山岳会に所属し併せて当会へ所属という形が多かったが、現在36%の会員は当会だけで他の山岳会には所属していない。

登山経験は「岩・沢登り、雪山までオールラウンドな登山経験者」が50%、「無雪期の低山・高山のみの経験者」が22%を占め、後者の比率は増え続けている。会員の構成はだいぶ変わってきているが、会員の山登りはなかなか盛んだ。年間の登山日数は20〜29日の会員が20%、30日以上の方が27%いる。低い山も含めて海外登山の経験者は50%、今後海外の山へ出かけたい意向の人が47%と多い。海外トレッキングも盛んで50%の会員が経験し、今後も60%の会員がトレッキングの参加意向を示している。

こうしてみると、世の中と同じように年齢は高いものの当会の会員は、いたって活動的なのである。

支部の数は現在25で、伝統的に各支部は主体性を尊重した運営となっている。3045名の会員(50・69%)が支部に所属し、各支部でのクラブライフをエンジョ

イしている。支部によつては国内山行、海外遠征、文化的活動など極めて活発なところと、必ずしもそうではないところと、バラツキがある。

会の現状をざっと俯瞰してみても、当会の「強み」「弱み」をいくつか感じていただけたことと思う。会の改革・改善のためには長く続いている誇るべき伝統、キラ星の如く在籍している豊富な人材、多くの活動的な会員の存在など、会の「強み」を生かすことだと思ふ。

世の中の山登りの大きな変化と、当会の会員構成の変化を直視しつつ、当会の中長期にわたる地道な改善計画をつくって、それを着実に推進することが大事である。そして不都合があれば手直しをする、あるいは新たな計画をプラスするということでスパイラルアップが図れば良いと思う。

この長期改善計画(骨子)にドラスティックな転換を期待されていた会員にはいたって地味と取られるかも知れないが、今後、プラン・ドウ・チェック・アクションの管理サイクルを不断にまわすことで、会の着実な発展が期待できると私は信じている。

■長期改善計画(骨子)

1 山岳会のコンセプト

◆日本山岳会の理念の継承

「わが国最古の山岳団体として創立以来のバイオニアワーク、精鋭的な登山活動の伝統を継承する。」

また、本会の理念を理解し山と自然を愛する登山者とともに歩む」

バイオニアワーク、精鋭的な登山を継続強化しつつ、大衆化の進む当会の会員にも対応した事業拡大を図ることとする。活動の内容としては「アクティブな登山(例・マナスル、ナムチャバルワ)」、「国内の多様な登山、行事」および「文化的活動(機関誌、図書、科学、自然保護等)」など、いわば複眼的な山岳会として幅広く実践してきたが、一層強化、充実を図る。

2 会員

◆入会資格

現行どおりとする。

「当会の目的に賛同し、会員2名(そのうち1名は役員または評議員、支部長もしくはその経験者)の推薦があり理事会で承認された者。支部会員については各支部の

規定を尊重する」

◆会員増強

事業の活発化をはかりながら、積極的に入会促進を行い会員数を増やす(ホームページの充実、各OB会への働きかけ、ほか)。

◆若年会員、青年会員の確保

●若年会員、青年会員の活動の積極的援助を行う(例・学生部海外遠征、青年部機関誌『きりぎりす』刊行)。

●10〜30代への入会アプローチの強化。

●経済的に入会しやすい26歳未満者への入会働きかけを行う。

●長期改善計画の一環として14年度総会で細則を改正、26歳未満の入会者について従来の入会金免除に加え、年会費を5000円とした(本年度26歳未満入会者8名)。

3 事業

◆基本的考え方

前記の項目1(山岳会のコンセプト)、2(会員)を受け、パイオニアワーク、精鋭的な登山を一層強化しつつ、未組織や経験の少ない会員を視野に入れた事業の拡充を図る。

*「国内山行」「海外トレッキング

グ」「講習会の一部」の活性化については集委員会の一強化(陣容、費用予算)により事業化を進める。推進にあたっては、専門の企業やスタッフの活用を行う。

◆海外遠征

●アクティブな海外遠征の強化

当会の理念継承の大事な事業であり、一層の強化を図ることとする。
*創立100周年記念登山(03冬期ロツエ南壁、ほか)

*支部主催の海外遠征

*委員会主催の海外遠征(マツキンリー気象観測登山隊ほか)

*創立100周年記念登山は右記のロツエ南壁隊のほか、第9次インドヒマラヤ登山隊2005(東海)、チベット・トウイ・カンリ登山隊2004(関西)が決定、ほかの支部でも検討中である。
本計画に沿って集委員会が募集したネパールの未踏峰を目指すカングリ・シャル(6811m)シニア登山隊2003は11名の隊員が決まり、4月15日出発予定。

◆海外トレッキング

ヒマラヤ登山の支援トレッキングや、かつてのネパール、カナディアンロッキーのようなトレッキングの拡充を図る。毎年年度計画

を立て、会報やホームページなどで募集し、実施する。

*本計画の具体策として15年度ふたつの海外トレッキングが予定されている。

・カングリ・シャルシニア登山隊支援トレッキング4/19〜5/11の23日間、現在募集中
・アメリカトレッキング「ヨセミテ紅葉の旅」9/10〜18

◆国内山行

一般山行、カルチャー山行、支部企画の山行など一層拡充を図る(リーダー保険導入済み、参加者の生涯保険の付保)。

◆登山講習会

各種登山講習会の充実

例・冬山登山入門、山スキー、机上講習会(救急、気象、地図など)
◆自然保護Ⅱ自然環境保全

●環境負荷を軽減しつつ、登山団体の当会らしい自然保護活動を積極的に実践する。

●当会の自然保護の方針(1992年5月23日制定「日本山岳会自然保護委員会の行動指針」)の再確認と一層の活動強化をはかる。

(例・「フィールド・マナーノート」の作成、「トイレマナーノート」の作成、「高尾の森づくり」を通じて

の体験的自然保護の実践↓いずれも高い評価を得ている)

◆会員サービス(狭義)の充実

●グッズ販売の充実/グッズ類(ネクタイ、帽子、ナイフほか)の新・改良販売の積極的実施

●山岳遭難保険の強化/現在約1800名加入。加入者を増やし割引率の向上を図る(現在事故助案を含め25%割引)。

●登山道具、山小屋料金などの割引制度の導入/登山道具店、山小屋と提携し、優待券を作成、配付し、割引での利用を促進する。

◆「講演会」の定期開催

●非会員も含めた講演会の定期開催/料金の安い公共施設を使い、登山や探検などの講演会を会員外にもPRして定期的に開催する。
*本計画に沿って平成15年度は2回予定されている。

・4/15(火)「メコン川水源の探査と初下降」現在申込み受付中。

・2回目は秋に予定。

◆若年会員獲得のため小・中・高校生への登山指導の実施

4支部(北海道・福井・宮崎・東九州)の子供登山の先行例を水平展開する。子供登山、親子登山と、支部により内容が異なるが、

先行例を参考に各支部での実施を
広げる。

＊12年11月実施の第4回会員アン
ケートで「若年会員獲得対策」と
して登山指導を会員の48%（第1
位）が支持している。

◆海外登山助成の充実（省略）

◆「秩父宮記念山岳賞」の充実（省
略）

◆出版事業の強化（省略）

4 施設

◆ルーム

「長期的に1階のルーム拡張」

1階の追加購入ないしは上層階
購入後1階との等価交換により1
階に必要な面積を確保する。この方
針に立ち一昨年10月211号室を
借り増した（購入を家主に打診
したが売却の意向がなく、今回は
賃借となった）。

＊超長期の課題は「日本山岳会
館」の取得。現在のビルを売却、
大きく値下がりしたオフィスビル
を購入し、当会使用部分外を賃貸
して借入金返済に充当する。

◆山研

「山研の一層の利用率向上」

社団法人としての公益性を考慮
しながら、PRの強化、各種催し

もの増加などにより稼働率の向上
を図る。本年は正月開所を実施、
56名が利用。

5 ジャーナル

◆ジャーナル類全体の充実

●より一層の充実を図る。費用の
予算措置を重点的に配慮する。

『山』『山岳』は事業のうちで会員
へ直接利益を還元するきわめて重
要なものだけに、内容充実、体裁
の見直しなどを図る。

●力量のあるエディターの発掘、
後継者育成／人材豊富な当会の強
みを生かして不断の人材発掘と後
継者の育成に努める。

◆会報『山』の充実

『山』は毎月会員へ直接配付され
る唯一の定期連絡、サーブिसであ
り、カラー化の検討などより一層
の充実を図る。

◆年報『山岳』の充実

『山岳』は会の記録および日本登
山界の動向を含め、従来の編集方
針を継続する。記録性を重視する。
速報的なものは『山』に、または
ホームページで。

◆初の日本発の英文山岳情報誌

『Japanese Alpine News』の充実
●JAC自前の情報収集機能を構

築する必要があ
る（後記「10海
外登山情報の収
集」と連動）。

6 ホームページ

インターネット
ト小委員会によ
り不断の内容充
実を図る。

＊会員アンケー
トで、43%の会
員がインターネ
ットを利用し、

50%の会員が当
会の情報をイン
ターネットで知
りたいと回答し
ている。

＊講演会の案内、
トレーニングの
募集など速報性
を要するものは

ホームページを有効活用する。

7 支部

◆支部活動の一層の活性化

●年2回（5、12月）の支部長会
議、および2月の支部事務局担当
者会議、全国支部懇談会や、会報

委員会の統合・再編（表1）

1	百年史委員会	副会長が担務（両委員会とも委員長をおく）
	山岳編集委員会	
2	指導委員会	統合して「指導委員会」とする
	遭難対策委員会	
3	青年部	統合して「青年部」とする
	高所登山研究委員会	
4	資料委員会	統合して「資料・映像委員会」とする
	フィルム・ビデオ委員会	
5	集会委員会	活動の拡充に伴い、名前を変更する →事業委員会

『山』などを利用して優れた活動
を水平展開させ、一層の活性化を
図る。

●活発な支部運営のために、一定
の規模以上にするよう、細則改正
時に支部設立の要件を見直す
（例：最低人数／現在20名→40名）。

8 組織・人事

◆会の組織の見直し

1. 理事会

●理事の数/定員20名を若干減らし機動化を図る(15年度1、2名減、17年度も減員を検討)。

●理事会の開催/15年度より従来の年11回を10回に減らす(8、1月は開催しない)。16年度以降さらに若干減らすことを検討する。

2. 常務理事会

組織の性格/従来どおり「機関」とはせず、「常務理事打ち合わせ」の性格を継承する。理事会の議題整理その他重要な事項について会長の指示により任務を遂行する。今回、遂行する課題を一部増やすことで理事会の審議事項を若干少なくする。(以下省略)

◆委員会の見直し

●活動の重複した委員会を統合・再編(表1)。2年後再見直し。

●委員会、委員の固定化傾向を少しずつ改善し、新風を吹き込む。

●「二理事一委員会」担務の委員会は原則として委員長はおかない

(例・総務、会報編集)。

*戦略的な仕事を担当する委員会の一部、副会長が担務する(例・

百年史委員会)。

◆定款、細則、規定類

●定款、細則と実態が合わなくなつたものは随時改正を実施する。

*本計画に沿って14年度総会で細則第7、12、21条を改正した。

●昨年9月に制定した「規定類管理規定」に基づいて14、15年度規定類の整備(改正、制定)を行う。

9 財務

◆会費、入会金

●会員増強、会費収入増、事業収入の確保、コストの削減に努め、将来できるだけ会費、入会金を長期間据え置くこととする。

*年会費の割高感が会員アンケートの回を重ねるに従って増えており、会員の高齢化、景気などを勘案してできるだけ長期間の価格の据え置きが大事である。

10 海外登山情報の収集

◆日本人の海外登山情報の収集

●百年史編集作業の中に取り込み記録収集、データベース化を図る。

*百年史完成後の課題

登山情報に精通した会員を臨時職員で雇用し、それ以降も記録の収集、データベース化を継続する。

平成14年度海外登山基金助成金審査結果

海外登山基金委員会

本年度は4隊の登山隊より助成金の申請がありました。計画書をもとに、各隊の申請内容を委員会メンバーで審議を行い、次の3隊に助成を行うことに決定しました。

助成金額	600,000	500,000	500,000
隊の名称	(社)日本山岳会東海支部 冬期ローツェ南壁 登山隊2003	明治大学 アンナプルナI峰 登山隊2003	東京農業大学 エヴェレスト・ローツェ 環境登山隊2003
山名・標高・ルート	ローツェ 8516m 南壁	アンナプルナI 8091m 南壁	エヴェレスト・ローツェ 8848m・8516m ノーマルルート
隊長・隊員	総隊長 尾上昇 隊長 田辺治 隊員 千田敦司 中村和貞 北村俊之 鈴木正典 他4名選考中	総隊長 平野真一 隊長 山本篤 登攀隊長 高橋和弘 隊員 大窪三恵 早川敦 加藤慶信 森章一 天野和明 松本浩 佐々木拓磨	隊長 山下康成 登攀隊長 谷川太郎 隊員 北村勝行 長久保浩司 広瀬健太 吉田裕一 中村和貞 飯塚敏宏 福留邦晃
登山期間	2003年9月1日～ 2004年1月10日	2003年3月15日～ 5月下旬	2003年3月中旬～ 6月上旬

海外の山

前英国山岳会会長の講演

江本 嘉伸



哲学者の風貌

アメリカン・アルパイン・ジャーナル(AAJ)の若き編集長として注目された、クリスチャン・ベックウィズが、AAJを離れ友人たちと創刊した『Alpinist』は、質の高い本だ。毎号、特定の山に焦点をあてて、その登山史に登場する登山家たちに執筆を依頼している。1号はチャングバン、発刊されたばかりの2号はガッシャブルムIV峰が、テーマだ。随所に素晴らしい写真を使い、数ヶ月以内に世界各地で行われた注目に値する登山を紹介する「クライミング・ノート」も充実している。

届いたばかりのその「2号」の冒頭に、メガネをかけた白髪の男の肖像がページいっぱいにクローズアップされている。

「ミルトン(注・一七世紀の英国の詩人)は失明した時、これから人生のほんとうの仕事がはじまる、と言った。それと同じように、体力の衰

えをもたらず無情な時の流れは、私の外側の世界を探索する力は減じさせたが、内部の世界を探索するためには、より向いている状態になっているようだ……」

ダグラス・キース・スコット。1941年5月29日、イングランドのノッティンガム生まれ。哲学者の風貌を帯びたこの人物は、エヴェレスト南西壁を初登攀し(75年)、頂上直下のビバークから生還を果たしたことで知られる、ダグ・スコットなのである。

この著名な登山家の講演を、2月21日、都内で聞くことができた。日本山岳協会の招きで前日来日したのだ。講演は、ブータンのジチュダケを5人で登攀した時の話からはじまり、その中から次々に印象に残る言葉が飛び出してくる。

「固定ロープは安全性の範囲を広げてしまうので、登山がおもしろくな

くなる」

「アルパイン・スタイルの良さは、次に何が起きるか分からないところにある」

「新しいルートに挑戦している瞬間自体がおもしろい。次に何が出てくるか、どこでビレーし、ビバークはどうするか、ということがひきつづける」

バインターブラック初登頂(77年)後、懸垂下降中に転落、両足のくるぶしを骨折しながら氷河の上を這って下山するシーンはじめ、スコットの数々の登山がスライドで映し出され、今さらながら、この「ヒマラヤン・クライマー」の登山実績に瞠目させられる。淡々とした語りの中に、ユーモア、しゃれ、適度なわさびの利かせ方も配合される。

「エヴェレストに登ると、新聞、テレビなどのメディアが取り上げるので、バランスを失ってしまうことが多い。このけがの後、野心を剥き出しにしないよう、つとめた」

スコットは、チベットの人気(ひとけ)のない山々と、その住民たちに魅せられているらしい。「チョモランマ、チョー・オユー、シシヤパンマには、いまや蜂蜜の壺のように人々が集まるが、他は静かな山ばかりだ。まだ登るべき山はいくらでもある」と、上空から撮影したチベットの山々を紹介しながら語った。

中国がチベットに対してとっている政策についての考えを率直に出す点、欧米の多くのクライマーに共通している。「6000の僧院を破壊し、多くのチベット人がなお牢獄で拷問を受けている」と。登山家だから、ということなれ主義はない。とりわけ、数年前のカルマ・パのインドへの脱出以後、厳しくなった中国の監視体制を批判した。

激しい登山を続けてきた登山家が行き着こうとしているのは結局のところ、人間への関心なのか。ただ、チベットの歴史と文化について、どれほど深く理解した上での発言なのか、真意は読みとれなかった。

日本山岳会会員の平均年齢と同じ61歳のスコットは、昨年12月までの3年間、英国山岳会の会長の座にあった。一方で、今年もチベットの未踏の山をめざす現役のクライマーでもある。

登山の価値観が茫漠とし、社会そのものも変換期にある時代、こういうクライマーが、登山組織のリーダーとしても活動していることに、改めて感銘を受けた。

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき一〇〇〇字程度をお願いします)



イラスト・宇都木慎一

ボカルカン(6346m) 初登頂

加藤 功一

私は40年以上も登山を続けてきたが、一度はヒマラヤの未踏峰の頂に立ちたいと夢見てきた。



ボカルカン山頂 バックはヒムルン・ヒマール

2002年、退職時にその機会が訪れた。早速、ネパールのペリヒマールにあるヒムルン・ヒマール(7126m)の登山を計画したが、パートナーが見つからずにいた。その折り、ネパール政府が新たに103座を許可した中にヒムルン・ヒマールの近くに未踏峰のボカルカンがあることを知った。7000mには満たないが、これなら1人でも行けそうだと思い計画した。この地域には1983年カングルー登山の際に入っており、地理的には心配なかった。メンバーは隊長の私と、シエルパ2名、コック、ハイポーター2名の6名。9月15日から2週間、クインブトレッキングで高度順化をはかる。10月10日カトマンズ発。19日BC設営(4850m)、21

日C1設営(5360m)、28日C2設営(5700m)、30日C3設営(6050m)、31日登頂。31日(快晴)7時C3発。頂上11時40分、12時55分。C3帰着14時35分。ルートはC3から主峰取り付きまでトラバースし、アイスビルディングの下を通過して急峻なルンゼを登る。雪が膝まであり、サラサラと崩れて進まない。前日トレースした時の固定ザイルにユマールをかけ腕の力を借りて登る。足の指先がじんじんと痛む。凍傷にならないよう指先を動かし続ける。途中ヒドウンクレバスがあり、足元の雪を吸い込んでいたのには肝を冷やした。

ボカルカンの頂上はだっ広い。高度計は6340mを指しているが、西方100m先に尖ったピークが見える。どう見ても高さが同じだ。細い雪稜をスタカトで通過して頂上に立つ。高度計の指示は6340mと全く同じだ。旗を立て記念写真を撮って引き返した。頂上からは360度の展望が素晴らしい。北からラトナチュリ、ヒムルン・ヒマール、ネムジュン、アンナプルナ、ダウラギリと豪華な眺めに時を過ごした。かつてと

もにヒマラヤに登ろうと約束した岳友の名を書いた名刺をカップに入れて頂上の雪に埋めた。ヒムルン・ヒマールをバックに記念写真を撮り引き返す。アンザイレンしてC3まで1時間40分下った。さすがに疲れたが、高度障害もなく未踏峰に登れたことで満足した。

思い出の剣岳 厳冬の登頂

宮本 数男

私と剣岳の関わりは、1952

ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



俳句

奥秩父

畑中 耕一

何に雪山に杖突く亀の脚

雪晴や九十九折れたる雁の路

みの虫は心の音を聞く雪の夜

雪明り眠らぬ宵や貂の面

味噌汁を楯の爆ぜたる金バケツ

寒の水杖して鹿の水場まで

詩

ヒマラヤの地に埋もれて

上野 幸人

ゆつくりと刻む時の中で、このま
まここに眠るのだろうかテントをたたく風の音がどこか遠
くのことのように思える

流れ落ちる雪の音も聞こえない

いつの間にか眠ったようだ

夜明けの寒気に目が覚める

やわらかな大気が待ちどおしい

朝日がテントを包む

静かに眠る仲間のそばではほんの少
しの希望が見えてくる

年立山から剣岳に縦走したときか
ら始まる。夏の合宿は54年から剣
沢で始まり、福井山岳会の恒例と
なる。71年マッキンリー登山の強
化訓練のため、3月から4月にか
けて小窓尾根から剣岳に登り、早
月尾根から馬場島に下った。

42年を経過して本年の正月、登
頂でき感慨ひとしおである。これ
も日本山岳会員の佐伯郁夫氏、村
松哲彦氏の熱き友情の賜物である。
12月29日、曇り。福井駅から電
車に乗り魚津で降りる。佐伯氏、
村松氏が出迎えていた。村松氏の
車で佐伯氏のログハウスに案内さ
れて、山談義に花が咲き、佐伯夫
人克美さんの手料理に舌つづみを
打ち、宿泊させていただく。

30日、曇り・雪。5時30分、迎
えに来た魚津岳友会のメンバーの
車に乗り伊折まで行き、馬場島で
警備隊に登山届を出し、早月尾根
の末端から登り出す。すでに踏み
跡があり我々ロートルにはありが
たい。早月小屋に入りここで宿泊。
天気予報では明日は雪とのこと、
心配しながら布団に入る。

31日、曇り・雪。6時30分朝飯、
表層雪崩時のためにビーコンを着
け、高所用アノラック・オーバー



風雪の剣岳頂上 村松氏(右)と私

ズボン、高所用のゴアテックスの
登山靴をはき、スパッツを着け、
アイゼンを装着すると久しぶりの
厳冬期登山なので身体が引き締ま
る。ハーネスも着用して8時に出
発する。

すでに深雪にラッセルがしてあ
り、その苦勞に感謝。雪崩が出そ
うな急な登りなので、着実にアイ
ゼンをきかせて登る。

カニのはさみ・獅子頭では村松
氏とアンザイレンをして慎重に登
る。13時30分に風雪のなか頂上に
立つ。気温マイナス10度。眉毛が
凍る。記念撮影をして休む間もな
く下山にかかる。天候悪化の兆し
があるため! 遭難は下りに多い
ので慎重に、ルンゼでは懸垂で下
る。急なやせ尾根では後ろ向きで
一步一步アイゼンをきかせて下る。

時々視界が開け、早月尾根の雪稜
が見えてきた。

早月小屋に16時30分に到着。今
までの高齢登頂者は3年前の佐伯
氏夫妻65歳が最高齢者とのことで、
2人で130歳の写真が小屋にか
けられていた。73歳の私はもちろ
ん最高齢者とのこと、夕食のとき
は、岳友会・高岡カラコルム・大
阪鋭峰会のメンバーもテントから
来室して祝杯をあげてくれた。

1月1日、晴れ・曇り。久しぶ
りの快晴となりゆつくり休む。昼
食の後出発して馬場島荘に泊まる。

2日、雪。10時馬場島荘を出発、
佐伯氏のところで休憩し、ビール
を飲みながら懇談。途中から山友
達が来て話に花が咲き、時間の経
つのが早い。19時福井着。

年老いても体力・気力・知力の
三力でヒマラヤも夢でなく、登れ
る自信がついた山行であった。

丹沢のニホンジカ

祖父川 精治

丹沢のニホンジカは、戦後狩猟
を一時期解禁としていたが生息数
が激減したので、神奈川県では保



のどが乾く
乾いた雪をボトルに詰め込み溶けるのを待つ
やがて幾らか溶けてきたシャープ
ットを食む
あつという間に無くなる
また雪を詰めて溶けるのを待つ
わずかな時がとて長く感じる
風が出てきた、下界は雲に覆われてしまう
幻聴なのだろうか、ヘリコプターの音が聞こえる
もういい、もうどうでもいい
静かな眠りがあるだけさ
凍てつくヒマラヤの地に埋もれて眠るのもいい

護を目的として1955年から15年間にわたりシカの狩猟を全面禁止とした。現在では、狩猟期間を12月1日から翌1月31日までの土日曜日とし、他に害獣駆除を目的として狩猟期間外も認めている。

1日5^キは採餌するといわれ餌場の限界を超えたシカの生息数、餌不足で下生えの草木や若木を食い荒らし、そして高所のブナ林へと移動し林床植物や大切な後継樹の芽生えをも食べ尽くしている。ブナの立ち枯れの遠因はその食性にもあるらしい。シカが食べないマルバダケブキ、バイケイソウ、アセビの分布が拡大している。

最近の調査では、成長の遅いもの、体脂肪の低下等、栄養状況の悪化が進み小形化しているという。14年9月、神奈川県が発表した「ニホンジカ保護管理計画「素案」によると、丹沢山地に生息する数を概ね2400頭から4200頭と推定した。この数で判断してみると全域的に生息密度が非常に高いとしている。

昨年までの狩猟期や期間外の害獣駆除によるニホンジカの捕獲数をこの20年間で見ると、2001年650頭を最高に、最低は19

81年290頭で年平均は530頭となっている。

次に、これらのシカを捕獲する人たちの免許取得、狩猟者登録数であるが、1981年8555人であったものが2001年では3002人となっており、ハンターが経年的に減少の傾向が見られる。現在、狩猟を職業としている人は皆無であろう。山中で幾度か出会っているが、登山者以上の脚力、集中力、忍耐、猟犬とのチームワークが必須で誰にでもできる仕事ではない。

同年10月12日、神奈川県主催の

「山の本」春の新刊発売!!

全世界紀行—民族と歴史、そして冒険

南里章二 著 (9364) A5判 480頁 本体2,700円
シルクロード、ヒマラヤの踏査。コンゴ、アマゾン川下り。サハラ砂漠縦横断など、全世界独立国192カ国を旅して。

鈴鹿の山を歩く

草川啓三 著 四六判 330頁 予価2,600円(3月刊)
鈴鹿全山約80のプロフィールとおすすめアドバンスコース20を紹介。カラーフォトエッセイなど、盛沢山な内容。

●好評発売中

四国の山を歩く

尾野益大 著 四六判 300頁 本体1,900円
四国の山々50余座を、史跡、植物、景観など山の個性に光をあてて案内する四国初の本格的ガイド紀行。

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ B全判地図13葉

宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・雁部貞夫 共著

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

「神奈川の野生生物の保護管理を考える」シンポジウムが開催された。基調講演「新たな自然環境管理」、県より「ニホンジカとニホンザルの保護管理計画素案の概要」説明があった。

要約すると、2003年から2006年までの中長期的な観点から丹沢山地個体群の安定的な存続を目的として保護管理計画を策定する。そして今後は、個体数の調整として概ね1500頭を下回らないよう捕獲維持し、今までは捕獲対象外としていたメスジカも解禁して行くというものである。

報告

REPORT
3月

集委員会

東部ネパール登山隊の
対象変更と現状

集委員会では昨年夏から中高年の会員を対象に、東部ネパールの未踏峰へ登山隊を派遣すべく会報『山』で隊員を公募したところ、全国各地から30名を越える応募がありました。

そして目標をクーンブヒマールの未踏峰タンギ・ゴイ・タウとして準備を進めてきました。しかし昨年秋、隊員予定者1名が現地に偵察に入り、C1予定地付近まで試登してカトマンズに戻った日、別のルートから登山活動を行っていた北海道岳連により初登頂され、結果的に当初の目的がつかえませんでした。これについては許可取得にかかわるエージェント決定段階での反省など多々問題点があります。そこで集委員会では急遽、エ

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

ージェントと相談し、隊員の休暇、経済面などを考慮し、タンギ・ゴイ・タウに変わる山として、同じ山域の未踏峰カングリ・シャル(6811m)を選択しました。

この山はチベットとの国境線上、プモリの西方に位置し、ネパール側は岸壁で構成された要塞のような威圧感のある山です。隊員も集委員会会の朴元担当理事を隊長に総勢8名が決まりました。当初の予定よりキャラバン日数も増え、登山ルートもかなりの困難が予想されますが、2月に試登したうえで4月から本格的な登山活動を開始する予定です。

本誌今月号のインフォメーション欄に支援トレッキングのご案内もしていますが、会員各位の力添えを得て、日本山岳会として初めての試みを成功させ、次回以降に継続できればと考えております。ご協力をよろしくお願いします。

丹水会

第43回例会 紅葉の大山

丹水会の秋の例会は、昨年11月23日から24日にかけて、久しぶりの大山で行われた。

あいにくの肌寒い天気の中、会場は6年ぶりの武田旅館。いつもなら夕食の前に、丹沢にまつわる話を聞く勉強会を行うのだが、今回は勉強会は休みにして、ゆつくり歓談を楽しんだ。

さて翌日は、なんとか天気も持ちそう。ケープルカーで下社まで向かい、そこからは3コースに分かれて、思い思いに秋の大山を楽しむ。まず、見晴台から日向薬師への「関東ふれあいの道」のんびりコース。そして、糞毛越から高取山を越えて鶴巻温泉への温泉コース。そして、大高山頂コース。山頂コースは見晴台を経て下社に下り、ケープルカーを使わず男坂を歩いて下るコース。時々雨も吹きつける濃い霧にさんざんの大高山頂だったが、下りに立ち寄った大山不動のみことな紅葉に、疲れがいつべんに吹き飛んだ。何ことも、終わりよければすべてよし。

(三好まき子)

図書紹介

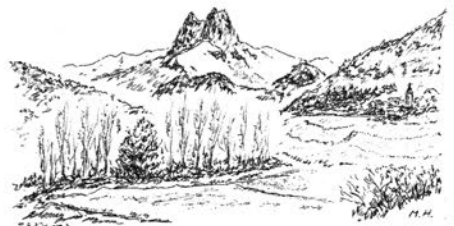


イラスト 蜂谷益雄

原作、シナリオ・江本嘉伸
波佐文化協会・編

画・南一平

『まんが
西藏探検家 能海寛』

いま当会会員の平均年齢は61歳だという。その世代には、まんが、とくに劇画などというのは日ごろ目にするものがない。今回この『まんが』を手にしたのは能海寛(のうみ)という人物への興味からだ。周知のように、一九世紀末、チベットをめざした4人の日本人がいた。河口慧海、寺本婉雅、成田安輝と能海寛である。このうち3人は目的地のラサに到達したが、

能海だけは1901(明治34)年、中国奥地で消息を絶つてしまう。仏教の原典を求めての旅であった。正直言つて、既に頭にあつても、その人の生涯の細部までは知識がなかったのだ。「まんが」なら読みやすそうだと手にとつてみた。

そして、とてもよくわかつた。原作がこの分野の第一人者である江本氏だから筋立てが巧みで、画も明快。劇画の制約から省略されたやつかいな文獻的細部は、詳細な解説(隅田正三)で補強され(懐かしくも総ルビ)、アルバムや年譜も加えられて、みごとな資料集になつてゐる。能海寛の故郷、島根県の一隅でこのような先人顕彰の試みが行われているのはすばらしい。

2002年3月 波佐文化協会
発行 158頁 2000円

一原有徳・著

『あの山の友』 —心に残る山と人との追想録—

1930年頃から北海道の山に登り続けた重鎮、一原氏は、山の記録や随筆が多く1974年茗溪堂から名著『小さな頂き』を出版

した。それから約30年、茗溪堂の坂本氏から「何か山の本を」との話で原稿をまとめたという。

一原氏の人柄から交友も多く、幅広い人脈に驚かされる。抜群の記憶力と執筆活動で次々と本を発行、また九糸郎の俳号を持ち、句集や小冊子などに俳句と山仲間を綴るものが多い。さらに版画家として独創的な表現を展開し、数多い版画が世界各地の美術館に所蔵される現代版画界の鬼才でもある。そうした一原氏が、90歳を超えたので出版はこれで最後と、故人となつた岳人の追想をまとめたのがこの本である。人物のシルエツトは特徴を捕らえてすぐに誰かがわかるし、スケッチも自由奔放でおもしろい。橋本誠二との山での奇遇な出会いや、伊藤秀五郎の「無限に高き無形の山」の理念に感動するなど、一原氏の心の内面を語る表現意欲に感服させられる。北海道の山行に限られてはいるが、厳しい登山に同行した仲間のなんと優しいことか、本当に山が好きで人には共感することが多い好著であろう。(鎌田 耕治)

2002年4月 茗溪堂発行
206頁 2800円

橋本誠二・著

『あの頃の山登り』 北海道の山と人

故・橋本誠二氏は、1930年代の札幌一中時代に、後の北大山岳部の先輩たちから登山の洗礼を受けて以来、60年以上北海道の山に登り続け、研究の場としてきた。第3次マナスル遠征にも学術隊として参加、92年には名誉会員に推挙されている。本書は没後7年を経て、遺族が保存していた膨大な資料を整理して刊行された。

山行記録と紀行、山のエッセイ、石狩・十勝と日高の地質構造・自然科学上の特徴、地質研究小史などの章に分けて遺稿がびっしりと収録されている。パイオニア時代の登山やペテガリ岳の雪崩遭難などが詳しく語られていて、晩年の回想に至るまで文体は淡々としながらも瑞々しい。各山域の地質学的概説や日高の圈谷、登山史などは北海道の山を知る上で貴重な論考であるが、専門的な論述であっても分かりやすい平明な記述で引き込まれる。また、随所に挿入された岳友・一原有徳氏宛のハガキは、地質学者ならではの几帳面で

味わいのあるスケッチと、誠実さあふれた文面が人柄を偲ばせる。

橋本氏は中谷宇吉郎、伊藤秀五郎、加納一郎、坂本直行、初見一雄らの北大理科系文化人の伝統を継ぐ系譜の人であると言えるが、どの文面からでも、本当に山が好きだったのだと伝わってくる。

掉尾を飾る有馬純氏の「誠二さんの少年時代の山登り」には、一生を北海道の山に親しみ、研究の場とした故人の冒険心とロマンの萌芽を知るのである。(松沢 節夫)

2002年12月 茗溪堂発行
286頁 3000円

山の本の古書店

山と探検に関する本の目録販売。

目録ご希望の方お申し込み下さい。



晴山書房

東京都中野区上鷲宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

Climbing & Medicine · 19**低体温症を知っていますか****船木 上総**

風邪をひくと、平熱37度（直腸温）が2度高くなって39度になるのはよくあることです。反対に2度低くなって35度以下になってしまうといろいろな症状が出てきます。これを低体温症といいます。今年の夏、トムラウシ山で2人の女性が亡くなっています。どちらも低体温症による死亡です。このような悲しい事故が繰り返されないように、低体温症についてよく理解することが大切です。その予防や適切な処置を知らないと大切な友、あるいは自分の命を失うことになります。なぜなら、低体温症を放っておくと、どんどん体温は下がり、数時間後には死が牙を向けて待ち構えているからです。

熱は体の中でつくられ、また、体の外へ放射や蒸発の形で失われていきます。そのバランスが一定に保たれているので、体温は安定しているのです。もし、体から奪われる熱が増加すると、熱の産生が追いつかず、体温が下がってきます。山で体温を奪う3人の犯人

は、寒さと風と水（雨、雪、汗）です。ですから、この3つから体をガードする必要があります。夏山で急に土砂降りに会い、身動きができずただ雨に体をまかせていると、しだいに震えが止められなくなり、歩きもふらつき、眠くなってきたり、ものを忘れやすくなります。もっとひどくなると、震えが止まり、歩くことができず、受け答えもできなくなてきます。こうなる前にツェルトを張ったり、小屋に入ったりして雨を防ぎ、濡れたものを着替え、温かいものを口に入れて、体の芯から温めることにより低体温症を防ぐことが必要です。また、「遠くから高いお金を出してやってきたのだから、少々悪天でも頂上にいくぞ、そして百名山の1つを征服するぞ」という無理が、恐ろしい結果を呼ぶことがあります。「いつでも山は登れるんだ、今日は退却だ」という、勇気ある撤退が必要です。

そういう私も、フランスのモンブランでスキー滑降中にクレバスに落下し16時間も宙吊りになった後に救助された経験があります。そのときの体温は28度で、あと1度低ければ心臓が止まる寸前でした。その体験談と、低体温症についての本を出しました。『凍る体』という題名で、山と溪谷社より発行されています。どうか一読ください。

注：医療委員会講演会（14年11月9日、杏林大学医学部）より抜粋しました。

図書受入報告（2003年1月）

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
日本人とチベット百年記念委員会	チベットと日本の百年：十人は、なぜチベットをめざしたか	238pp/21cm	新宿書房	2003	編者寄贈
平山三男	ヒマラヤの青春：立川女子高校遠征隊同行記（平凡社ライブラリー）	267pp/16cm	平凡社	2003	出版社寄贈
橋本誠二	あの頃の山登り：北海道の山と人	286pp/21cm	茗溪堂	2002	出版社寄贈
ヴァインマヤ（著）海津正彦（訳）	全盲のクライマー、エヴェレストに立つ	494pp/20cm	文藝春秋	2002	出版社寄贈
中島篤巳	鳥取県百名山	336pp/19cm	葦書房	2002	出版社寄贈
河西照勝・他	自然ガイド 脊振を歩く	219pp/21cm	葦書房	2002	出版社寄贈
エーデルワイス・クラブ（編）	花と山：100人の100山	217pp/21cm	新ハイキング社	2003	著者寄贈
金子民雄	西域 探検の世紀（岩波新書 No. 776）	221pp/18cm	岩波書店	2002	水野勉氏寄贈
三日月直之	窓の山稜	296pp/19cm	葦書房	2002	著者寄贈
Bruce White (ed.)	New Zealand Alpine Journal 2002 (Vol.54)	136pp/25cm	New Zealand A.C.	2002	発行者寄贈
Irmtraud Stellrecht (ed.)	Karakorum-Hindukush-Himalaya: Dynamics of Change (Part 2)	678pp/24cm	Rudiger Koppe Verlag	1998	Mr.W.Heichel寄贈
Ed Douglas (ed.)	The Alpine Journal 2002 (Vol.107, No.351)	370pp/23cm	The Alpine Club	2002	発行者寄贈

会務報告

1月理事会

日時 1月13日(水)18時30分～21時
場所 日本山岳会会議室

「出席者」 大塚会長、長尾、村井、芳賀各副会長、西村、坂井、今村、高原、鳥居、中村、藤本、高遠、朴元、黒川、鈴木、松原、河西、宮下、小川各理事、古市、内田各監事、平林、宇田川、鰐坂各常任評議員

「委任」 大野理事、宮崎常任評議員

◎議事に先立ち大塚会長より新年の挨拶。「私の任期も5月まで、積み残しのないよう締め括りたい。特に100周年事業の募金については会報1月号で皆さんにお願いをした。また海外登山、支部との協同による分水嶺踏査計画等についても準備委員会で早めに煮詰め、6つの各委員会に引き継ぎたい」

【審議事項】

1 「同好会規定」(別添資料あり)の制定について(その2)

(主旨) 同好会の位置づけなどを明確にし、より有効なクラブ活動

とする。

(主な内容) 同好会の義務および権利、同期会の位置づけを定めた。(実施) 平成15年1月15日(承認)

2 長期改善計画(案)について(その2)

西村

「長期改善計画(案)」(資料あり)が12年度の理事会で審議され、長期改善計画策定プロジェクト(リーダー西村)で継続検討して再提案された(別添資料あり)。熱心な討議があり一部訂正された。本計画案は、次の内容について再度前記プロジェクトで検討することと条件に承認された。

①「本会のコンセプト」における表現について

②「委員会の再編」で資料委員会、フィルムビデオ委員会を、財務委員会に含めた資料小委員・フィルムビデオ小委員会(理事1名)とする件について

なお、本案件は1月25日開催予定の評議員会に諮問する。

(条件付き承認)

【報告事項】

1 各委員会報告

総務委員会

西村、高原
●支部事務局担当者会議を、2月15日(土)13時30分よりグリーンホテル

ル、16日(日)10時より当会会議室において開催する。初日のシンポジウムでは、「長期改善計画を念頭に、各支部への入会資格等」を主に話し合う予定。

●104号室の利用マナーの徹底願いがあった(吸い殻入れに紙を捨て煙がでた)。

●理事会資料の提出期限(前の週の土曜日まで)励行願いがあつた。

財務委員会

村井副会長

●12月末までの会計報告(資料あり)。昨年に比べると会費納入率が92%と4%下がっている。

●日本テレビよりチョー・オユー女子登山に対し100万円の入金。

●来年度の各委員会に対し予算額要求の案内があつた(1月31日までに財務委員会に提出)。

会報編集委員会

今村

●1月号は、「平成14年次晩餐会報告」、大塚会長「新春によせて」がトップ記事。

●カラー化を試みた(試作を回覧)が、費用が5、6割アップするの

自然保護委員会

河西

●「木の目草の芽」48号発刊の案内があつた。

●トイレマナーノート制作配布お

よび会計報告(別添資料あり)。
集会委員会 朴元

「カンگری・シャール(6811)」シニア登山隊2003の計画について報告があつた。当初予定していたタンギ・ゴイ・タウ(6938)が登頂されたため山を変えた。総勢8名(別添計画書あり)。

山研運営委員会

小川

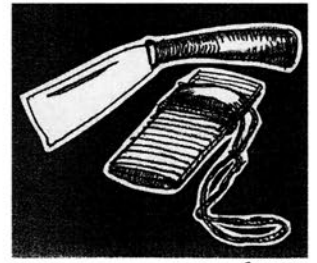
年末年始(12/30～1/3)の山研利用状況についての報告が別添資料によりあつた。合計56名の利用があり、存分に雪の上高地を堪能できた。次年度も計画したい。

ゴールデンウィーク・カトマンズ行(名古屋発着)

ヒマラヤ越えフライト(第12回) 4/26(土)～5/5(月・祝)まで
チベット高原上空からカトマンズへ
ヒマラヤ越えが魅力の特別運航便
ボーイング757、機窓からの大パノラマ

ALPINE ツア サービス 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03(3503)1911
大阪/☎06(6444)3033 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
e-mail:info@alpine-ts.co.jp http://www.alpine-tour.com

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆「山研」平成15年度開所案内

山研運営委員会

4月から山研周辺の除雪、建物の雪囲い撤去、飲料水確保などの開所準備を行います。会員の利用は4月28日(月)を予定しています。開所から5月5日までの利用については、ハガキかFAXで利用人数、男女数を明記の上事務所宛(TEL 03-3261-4441)。
*4月1日より受付。連休以降の利用申込みは5月5日以降に直接「山研」へ。

◆創立100周年記念事業 白神山地ブナ林再生事業

世界遺産地域に隣接するスギ植林地をブナ林にもどす作業です。作業しながら、6月は山菜料理、9月はキノコも楽しめます。クマゲラやサルなど、野生動物との出会いも魅力です。

期日 6月20〜22日、9月19〜21日
申込み・問合せ

〒036-8323 弘前

市浜の町東5丁目3-19

村田孝嗣 FAX 0172-3

3-4687 Eメール

danburi@infoamori.ne.jp

定員 60名(定員に達し次第締め切り)

◆特別講演会

「メコン川水源の探査と初下降」

海外委員会・集会委員会

(協力東京農業大学探検部)

東京農大探検部は1994年よりチベット横断山脈メコンの源頭を探り99、02年の2回にわたり継続航行している。高所でのメコンは地図上全く未知であり、断崖絶壁のそれはエディ、ストッパー、オチコミの連続で予測のつかない波濤が続き、マサしく探検であり、命がけの冒険である。同探検部はメコン川の全航行を目指しているが、未だ中国政府は難色を示している。
東チベットの先駆者・中村保氏の解説と東京農大探検部の「メコン航行」の講演(北村昌之隊長)ならびにスライドです。ぜひご参加ください。

支援トレッキングのご案内

集会委員会

集会委員会主催による公募登山、カンگری・シャル・シニア登山隊が結成されました。この登山の実行にあたり、支援トレッキング隊員を募集します。

●行程

カトマンズ〜ルクラ〜ナムチェバザール〜ゴラクシェプ〜ペリチェ〜カラパタール登頂後、カンگری・シャルBCを訪問し、隊員を激励。無理のない行程で高所順応期間を十分にみています。

●期間 4月19日(土)〜5月11日(日)

●費用 43万円(予定)

●お申込み、お問合せは下記まで

ヒマラヤ観光開発(株) 井本重喜

Tel 03-3574-9292

Fax 03-3574-6957

Eメール info@himalaya-kanko.co.jp

*参加申込者には別途詳細案内をお送りします

◆第5回「森の勉強会」

東海・京都・関西3支部、自然保護委員会共催

登山者が最も多く出合う暖温帯と冷温帯の森を構成する主要樹種に的を絞って、それらの識別力を確かにする講義と野外学習を中心に、そのほか今日のテーマなども。

日時 6月14日(土)13時〜15日(日)16時

現地集合解散、雨天決行

場所 座学と宿泊・山びこの丘

(鳳来町)、実習・愛知県民の森(宇連山麓)

日時 4月15日(火)18時30分〜20時30分(受付18時〜)

場所 東京体育館 講演会会場

(右手奥) 渋谷区千駄ヶ谷

1-17-1 TEL 03-54

74-2111 (JR千駄ヶ谷駅より徒歩3分)

参加費 無料

申込み 4月8日(火)までに氏名・

会員番号を記入の上FAX

またはハガキで日本山岳会

事務局宛(FAX 03-32

61-4441)

14日 各支部、本部の自然保護活動状況報告、愛知万博と自然保護(講話)、愛知県山間地域の環境問題とその対応(講話)、県民の森で出合う樹木(講義)

15日 野外学習・県民の森(登山と同等の山坂あり)

費用 17000円(1泊2食+弁当)

定員 共催3支部以外に10名

交通 JR飯田線本長篠駅より車で送迎。現地での移動のため、できれば自家用車でおいで下さい。

申込み 会員番号、住所、電話、FAX、加入山岳保険を明記し、4月30日までに、ハガキかFAXで南川陸夫宛(〒478-0024 知多市南粕谷1-20 TEL:FAX 0569-42-5382)

*参加申込者に詳細案内と会費振込先を送ります。

◆予告・探索山行「南の塩の道と熊伏山を訪ねて」(仮称)

科学委員会

日時 6月7(土)~8日(日)

場所 静岡県、秋葉街道と南アルプス展望の熊伏山(一等三

角点

交通 東京より貸切りバス
※詳細は次号に掲載します。

◆観天望気山行

94同期会・山の気象研究会共催

地表天気図・雲形観測・現地の地域特性などを参考に、プロの気象研究者が現地の気象現況・予報を解説、平地と山地での違いをもに考察してみる

日時 4月19日(土)8時・京王・高尾山口

場所 高尾山付近

*雨天決行

会員異動

物故

長門 輝彦(12684) 02・6・19

諸岡久四郎(10046) 02・10・22

宮澤 幸子(12426) 02・11・20

菅 靖夫(8774) 03・1・6

星野 辰雄(2770) 03・1・10

退会

宮島 孝一(2660)

相川謙二郎(4476) 北海道

中村 省爾(8684) 広島

建部 博重(11278) 京都

松上 良生(13187) 広島

倉橋 和義(13268) 京都

改姓

岩城 富美(11413)旧姓加藤

ルーム日誌

1月

6日 総務委員会 会報編集委員

会

7日 アルパインスケッチクラブ

8日 総務委員会 アルパインス

キークラブ 山岳地理クラ

ブ つくも会

9日 学生会 山の自然学研究会

10日 フィルムビデオ委員会

14日 常務理事会 自然保護委員

会

15日 理事会 三水会

16日 資料委員会 フォトビデオ

クラブ

21日 集委員会 インターネッ

ト小委員会 二火会 00同

期会

22日 図書委員会 山研運営委員

会 アルパインスキークラ

ブ

23日 青年部 山遊会

24日 集委員会

28日 自然保護委員会 95同期会

02同期会

29日 会報編集委員会

30日 海外登山基金委員会 学生

部

31日 土曜会

1月来室者502名

■訂正 2月(693)号8ページ

3段、15行赤牛山は赤牛岳、17行小暮理太郎は木暮理太郎、4段6行日本山岳協会は日本山岳会の誤りでした。お詫びして訂正します。

◆編集後記◆

●今年の春山は北アルプスなどでは残雪が多いようで、底雪崩が心配されます。十分注意して春山、残雪期の登山を楽しんでください。
●東西南北欄への投稿大歓迎ですが、最近長文の投稿が多くなっています。この欄はできるだけ3段1300字程度を考えておりますので、ご了承ください。
(今村千秋)

日本山岳会会報 山 694号

2003年(平成15年)3月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 大塚博美

編集人 今村千秋

Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社